

第22回 メディアから見た最近の話題

2023年8月27日

今回は「メディアから見た最近の話題」と題して、私が最近気になった記事についてお話しいたします。最初は、7月の世界の平均気温が過去最高になり、「『地球温暖化』の時代から『地球沸騰化』の時代に突入した」という話題を取り上げます。次に、「国立科学博物館が財政難になり、クラウドファンディングで寄付金を集める」という、私にとってはショッキングなニュースについてです。最後に、「アメリカのサンフランシスコ市でタクシーの無人運転による24時間営業が始まった」という自動運転車の時代が到来したというニュースです。「メディアから見た最近の話題」から、この3項目についてお話しをして、皆さんにも考えてもらいたいと思います。是非、ご意見をお聞かせ下さい。



地球は「温暖化の時代」から「沸騰化の時代」へ

7月27日に、世界気象機関（World Meteorological Organization）とEUの気象情報機関の「コペルニクス気候変動サービス」（Copernicus Climate Change Service）は「7月の世界平均気温が観測史上最高になることが確実になった」と発表しました（最終的に、世界の7月の平均気温は16.95度、一番暑かった日は7月6日で、17.08度となりました）。また、UN Newsによれば、国連のグテーレス事務総長は同日に、「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来した」（the era of global warming has ended and “the era of global boiling has arrived”）と述べ、警告しました。高温・日照りにより、世界各地で山火事などが起こり、永久凍土さえも溶け始めています。地球が悲鳴をあげているように感じます。

イランの首都テヘランでは43度、南西部では51度が予想されるため、政府は

8月2日と3日を休日としたようです。ハワイのマウイ島では山火事が発生し、強風により、またたく間に火が拡がり、かつてはハワイ王国の首都でもあったラハイナの町の中心部は焼き尽くされ、黒焦げになった車が放置されておりました。私は一度マウイ島に10日程滞在したことがあり、ラハイナの町も訪れたことがあります。焼き尽くされたラハイナの町の光景をテレビで見て、呆然といたしました。また、8月15日には大西洋のハワイと呼ばれているスペイン領カナリア諸島のテネリフェ（Tenerife）島でも国立公園で大規模な山火事があり数千人が避難し、現在（8月20日）も延焼中です。また、カナダの北西部のノースウエスト準州（Northwest Territories）のイエローナイフ（Yellowknife）の郊外で山火事が発生、およそ20,000人の住民に避難命令が出されています。現在、山火事はイエローナイフのおよそ15キロ地点まで迫っており、このまま雨が降らなければ週末（19日、20日）にも到達するようです。（山火事は、8月24日のカナダのCTV NEWSによれば、懸命の消火活動により、イエローナイフの郊外からおよそ15キロの地点に留まっているとのこと）。イエローナイフはオーロラ観光で有名な場所です。今年カナダでは、山火事は1000件以上発生しております。

日本でも、7月の平均気温は観測史上もっとも高く25.96度となりました（世界の平均気温と比べるとかなり高いですね）。東京では、35度以上の猛暑日はずでに21日（8月26日現在）となり、過去最高となりました。東京の2014年から2023年（8月26日現在）までの10年間の猛暑日の平均日数は13日となっています（気象庁ホームページ）。年々多くなってきました。去年は16日で、過去2位です。夜は毎日25度以上の熱帯夜で、日本の夏はもはや冷房がないと生きていけない状態になったと言ってもいいのではないのでしょうか。エアコンを使用すると電力を消費し、室外機から出る熱風で気温を更に上昇させますが、命には代えられず、仕方なく私の家でもほぼ1日中エアコンを使用しております。NHK NEWS WEB（8月9日）によれば、新潟県の妙高市の水道水源の矢代川が連日の暑さと日照りで渇水状態になりました。市は節水を呼びかけています。川底が見えて干上がった矢代川をテレビで見て、10年後、20年後の日本はどうなっているのかと思いました。

気候変動（Climate Change）は想像以上のスピードで、世界各地で進んでいると実感しております。エコ・カーぐらゐの実現で満足していたら、大変なことになるのではないのでしょうか。皆さん、人類は「地球沸騰化」に対する具体的な行動・対策を取れると思いますか？

国立科学博物館が財政難に

上野の国立科学博物館は明治 10 年（1877 年）に設立された自然史、科学技術史に関する国立の唯一の総合科学博物館です。英語名は **National Museum of Nature and Science** といいます。外国人がこの英語名をみたら、この博物館が財政難に陥っているとは全く思わないでしょう。しかし、この長い歴史を持った国立科学博物館が何と財政難に陥っているのです、このお話しをしたいと思います。

国民の話題にはあまりなっておりませんので、このことを知らない人が多いのではないのでしょうか。国立科学博物館の館長が 8 月 7 日に記者会見をして、「財政の窮状」を訴えました。コロナ禍による入館者の大幅減少と光熱費の大幅な高騰などにより、節電などの自助努力ではどうにもならない状態になっているとして、「標本や資料の収集、保管の費用」を集めるためにインターネットから寄付金を募る「クラウドファンディング」を始め、目標金額は 1 億円としたそうです。当日の午後 5 時すぎには目標金額が達成されたようです。同館のホームページによると、現在支援者は 41,975 人、支援金額は 673,655,000 円とのことです（8 月 18 日午後 2 時 40 分現在）。引き続き 11 月 5 日まで続けるとのことです。同館の館長は、「標本は過去にさかのぼって集めることはできない。コレクションを増やして、きちんとしておくことは将来の研究にとって重要なこと」と述べております。

また、同館のホームページによると、同館の使命は、「国立科学博物館は自然史及び科学技術史の中核的研究機関として、また我が国の主導的な博物館として調査・研究、標本・資料の収集・保管・活用，展示・学習支援活動を通じ、人々が、地球規模課題を含む地球や生命、科学技術に対する認識を深め、地球と人類の望ましい関係について考察することに貢献します」とのことです。我が国の科学の「殿堂」である国立科学博物館が国民の善意による寄付金で財政難を凌ぐということは間違っていると思います。日本は世界第 3 位の経済大国であり、アジアで唯一の G7 加盟国ではないですか。防衛費の倍増や巨額に上る少子化対策費に比べ、国が僅か 1 億円の支援すらしないというのは 私にとっては考えられないことです。恥ずかしいことです。ある程度十分な予算の上に、国民から寄付を募るということはよいことだと思います。日本には「寄付」する文化がありませんので、考えるよい機会だとも思います。「文化、学問」を大事にしない国には「将来はない」という気がいたします。皆さん、どう思いますか？ 是非一度、上野の国立科学博物館を訪れてみて下さい！

サンフランシスコでタクシーの無人運転による 24 時間営業が始まる

米国カリフォルニア州当局は 8 月 10 日にグーグル傘下のウェイモ (Waymo) とゼネラル・モーターズ傘下のクルーズ (Cruise) の 2 社にサンフランシスコ市内でのタクシーの無人運転による 24 時間営業を認めました。確認するために、朝日新聞デジタル版の動画を見ました。夜の乗車でした。朝日新聞の記者は 8 月 7 日 (Cruise 社は昨年 6 月に州当局から認可を得て同市の一部地域で午後 10 時から午前 5 時までの間の無人運転による営業に参入。8 月 10 日からの 24 時間営業開始に先立って乗車したようです) に GM 傘下のクルーズ社の無人タクシー (driverless taxi/robotic taxi) を利用。スマートフォンのアプリを開いて目的地を入力すると (目的地以外にも当然入力する項目があると思います)、7 分ほどで、無人タクシーが道路わきに止まりました。車内に乗り込み、シートベルトを締め、前にある画面の Start Ride (運転開始) のボタンを押すと、ゆっくりと車は走りだしました。無人タクシーは珍しいので、横断歩道で通行人が車を眺めていると、画面に「衝突の可能性がある」との表示が出て、このタクシーの担当者から音声での連絡があり、その担当者と記者との間で会話のやり取りとがあり、その後解決、無人タクシーはゆっくりと動き始めました。無人タクシーは時速 20 マイル (約 32 キロ) 前後で走ったようです。動画はここで終わっています。料金は恐らくアプリに登録してあるクレジットカードで決済されるのではないのでしょうか。クルーズ社の CEO は、「2030 年までに米国で 100 万台の無人タクシーを配備し、日本にも参入する」との意向を示しておりました。路上で止まって動けない事例が多発しているようですが、事故なく安全に営業できるかどうかは今後の問題点だと思います。いずれにせよ、無人タクシーの普及に向けた「大きな第一歩」であると思います。また、一方でタクシー運転手の不足を補ってくれるかもしれませんが、安全性が確保されれば、「タクシー運転手が失業する」という問題点もあります。朝日新聞の記事の中でもタクシー運転手が、「我々の仕事がなくなってしまう」と訴えていました。これは何もタクシー業界に限ったことではありません。色々な業界で、今後、人間に代わって AI に職場を奪われることが出てくるのではないのでしょうか。もうすでに、AI 化が進んで皆さんが勤めている職場でも、こういうことが起こっているかもしれません。社会が劇的に変化する時代では仕方がないのかもしれませんが、若い皆さんは今後の社会の変化に対応できるように、常に準備をしておくことが肝要かと思います。今回の無人タクシー 24 時間営業開始は、「負の副産物」も発生するということです。皆さん、どう思いますか。

【参考・引用メディア：朝日新聞、朝日新聞デジタル、NHK NEWS WEB、ロイター、読売新聞オンライン、REUTERS、UN News、AP、BBC NEWS JAPAN、CTV NEWS、気象庁ホームページ、国立科学博物館ホームページ、Time Magazine】

(次回は 10 月中旬を予定しております)

